

眼科に通院・入院したことがある患者さんまたはご家族の方へ （臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報／研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和5年3月27日一部改正）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] diffuse trickling pattern の萎縮型加齢黄斑変性と抗網膜抗体の関連

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院・病院長 渥美 達也

[研究責任者名・所属] 安藤 亮・診療講師 北海道大学病院眼科

[研究の目的]

diffuse trickling pattern の萎縮型加齢黄斑変性*の患者さんと網膜前膜もしくは黄斑円孔の患者さんの血液検体を用いて、抗網膜抗体**の有無を検査します。diffuse trickling pattern の萎縮型加齢黄斑変性は原因が不明な疾患ですが、抗網膜抗体が関与しているかどうかを調査します。そのために、diffuse trickling pattern の萎縮型加齢黄斑変性の患者さんと網膜前膜もしくは黄斑円孔の患者さんの間で、抗網膜抗体の陽性数や種類に違いがあるのか、さらに陽性となった抗網膜抗体と臨床所見との関連を調査します。

*diffuse trickling pattern の萎縮型加齢黄斑変性は、萎縮の拡大速度が速く、夜盲（暗いところで見えない）があるという特徴があります。

**抗網膜抗体とは自己の網膜を攻撃してしまう抗体のことをいいます。しかし、実際には攻撃しない抗体が大半であり、抗体が陽性であるからといって必ずしも目に病気になるわけではありません。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

- ①：2013年1月1日から2023年7月31日までの期間に北海道大学病院眼科に通院または入院し、diffuse trickling pattern の萎縮型加齢黄斑変性と診断された患者さんのうち血液検体が保管されている方
- ②：「網膜色素変性における抗網膜抗体の解析と病態修飾の解明」（自021-0051）という研究に对照群として参加した、網膜前膜および黄斑円孔の患者さん

○利用する検体・情報

<対象となる患者さん①に該当する方>

検体：血液

情報：*2023年7月31日までのカルテ情報を使用します

- ① 背景情報：年齢、性別、主訴、症状、病歴、診断名、治療歴
- ② 自覚的検査結果：視力、視野
- ③ 他覚的検査結果：屈折値、細隙灯顕微鏡所見、眼底写真および所見、光干渉断層計[網膜・脈絡膜の断層像]、眼底自発蛍光、蛍光眼底造影検査、網膜電図

④ 血液検体中の抗網膜抗体の陽性数と種類

<対象となる患者さん②に該当する方>

検体：なし

情報：「網膜色素変性における抗網膜抗体の解析と病態修飾の解明」（自 021-0051）で収集した診療情報および研究目的で測定された項目の結果

[研究実施期間]

実施許可日（情報の利用開始：2023年9月頃）～2026年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができません。

研究に利用する患者さんの検体・情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北区北14条西5丁目

北海道大学病院眼科 担当医師 安藤 亮

電話 011-706-5944 FAX 011-706-5948